

事業報告書

2020 年度は新型コロナウイルスのパンデミックという未曾有の事態に直面し、スポーツプログラム等の活動が全面的に中止を余儀なくされた年となった。

1. 知的障がい者のスポーツ活動の充実

16 競技のスポーツプログラムは 2 月まで実施し、3 月から 12 月までは中止せざるを得なかった。

2 月に予定されていたスペシャルオリンピックス 2020 北海道を始め、ボウリング競技会、九州・沖縄ブロック大会等もすべて中止となった。

6 月以降、アスリートの体力維持やコミュニケーションの場として、オンラインによるストレッチ及び体操等を、不定期ではあるもののできる限り開催した。

2. 知的障がい者スポーツ振興のための人材育成

ボランティアコーチの確保及びレベルアップを目的とするコーチクリニックは SON からの通達により中止となった。

3. 知的障がい者への理解を深めるための広報・啓発事業

「博多どんたく港まつり」パレードを始め、ユニス・ケネディ・シュライバー・デーの意義を留めるイベント、例年多くの人を巻き込んで SO の広報啓発の柱となっていたイベントもすべて中止となった。

その中で 8 月には、安増会長の発案により、万全のコロナ対策のもとチャリティバザーを開催することが出来た。

さらに 9 月には、KBC シネマで SO の活動意義と深い関わりを持つ小栗監督の映画「チャレンジド Challenged」上映会を全面的に支援し多くの来場者を得た。

4. 他団体との連携による新たな取組み

2020 年 2 月福岡県立ももち文化センターにて、「People Art Performance2020～人とアートを巡る 100 通りアートプロジェクト～」が開催され SON・福岡のアスリートも参加し、演劇の手法を使い作品を作り、舞台上で発表する貴重な体験をすることができた。

また、アートを用いた表現を使って、新しい社会参加と地域活性化を目指したプロジェクト「くばらだんだんアート 2020」で SON・福岡の絵画プログラムに所属するアスリートが表彰を受けた。

更に、NPO 法人ドットジェイピーより「インターンシッププログラム」として、春 4 名、夏 2 名の学生を受け入れ SON・福岡の活動を学生層に周知する方策に一定の成果を挙げた。

5. 公益社団法人実質スタート

2019 年秋 NPO から公益社団となり、2020 年 2 月の NPO 清算終了をもって実質的に公益社団法人のスタートを切った。

本来ならば公益社団法人の特性をフルに活かし広報啓発活動を大きく進める年であったがコロナ禍の中思うに任せない結果となった。